

# 第105回 ふじのくに防災学講座

- 日 時 平成30年2月17日(土) 10時30分~12時00分
- 会 場 静岡県地震防災センター (静岡市葵区駒形通5丁目9-1)

テーマ 『災害発生時に求められるしなやかさ  
: 命を守るコミュニティ』

講 師 静岡文化芸術大学  
文化政策学部文化政策学科 河村洋子 准教授

## (講演概要)

災害発生時には「想定外」のことは必ず起こりえます。私自身、熊本地震を経験しましたが、私を含め熊本県民の多くが地震に全く備えていませんでした。全てが想定外といっても過言ではありません。そのような状況で実感したことは、柔軟に状況に向き合うことの重要性です。これは、個人レベルでも言えることですが、有事の際に一人では乗り切れないことを考えると私たちの備えとして一番大事なのは、力を出しあうことができる柔軟なコミュニティをつくっておくことです。



災害発生時に求められるしなやかさ：命を守るコミュニティ

静岡文化芸術大学・河村洋子

災害について、私たちの推定が100%正しいことはまずあり得ず、想定外のことは必ず生じます。もちろん、できる限りのことは準備しておくのが良いことはわかっています。備えには、物資や構造物などの環境といったことは欠かせませんが、それを資源として使うのは私たちです。究極の想定下では、(願わくば)一時期であったとしても、日頃よりも少ない、限られた資源をうまく活用して、自分たちの命を守ることが求められる状況に置かれるかもしれません。また、甚大災害発生時には個人や家族よりも、少し大きな地域コミュニティという単位で互いを守り合わなければなりません。これは私の熊本地震お被災経験に基づくものです。つまり、家族以外の人たちを含む集団が命を守り合う仲間、チームということになります。

必ず生じる想定外の状況に対して、私たちに求められるのは、柳のようにしなやかに対応することができるという柔軟性です。「レジリエンス」という言葉で言い表せるかもしれません。想定外の状況に対応しながら、回復していく力、となるわけです。

柔軟性に限らず、集団の力とは決して一夜にして備わらものではなく、平時からの積み重ねで培われるものです。最近の認知心理学などの研究の知見から、人間の行動に関して、いかに非論理的で、感情的に意思決定がされるかということが明らかになってきました。そして、人同士のつながりやお互いさまたちと思えること(互酬性の規範)といった概念で構成される「ソーシャルキャピタル(社会関係資本)」が、人の寿命や健康度に大きな影響力をもつという知見が、公衆衛生分野の社会疫学研究などにより多く積み上げられてきました。このようなことから考えると、地域コミュニティにおける、平時の「ノーとは言えない」関係性づくりがとても大事であることがわかります。

また、これから日本は超高齢社会に突入します。このような社会状況の下、私たちは「人口は減り、どんどん高齢化していく地域コミュニティではできることは何もない」と感じてしまうかもしれません。「やれることはやりきった、あるいはやってるし…」と思われるかもしれない。このような時こそ、自分たちでイノベーションを興す必要があるし、それができると私は考えています。イノベーションとは、客観的に、純粋に新しいことではないのです。実は、自分たちにとっては「当たり前のこと」がお隣の地域コミュニティでは当たり前ではなかったり、その逆もあるかもしれません。このようなことは、お互いにとってのイノベーションになり得るのです。また、同じ地域コミュニティの中にも、実は潜んでいる工夫や知恵があるかもしれません。ただお互いに知らないだけかもしれないのです。このようなイノベーションの種を見つけ出すためには、「多様性」が必要です。

多様性とは、互いに尊重されるという関係性が集団に存在し、個が共存することで実現されます。そして、個と集団は進化しながら継続的に多様性を高めていきます。このように考えると、多様性と柔軟性は相互に強く関連していることも、想像していただけるのではないのでしょうか。多様性と柔軟性の高い地域コミュニティは、つながりをうまく持ち合い、構成メンバーが心地よく共生でき、互いに助け合えることができる。そして、互いに成長できる環境を提供してくれるものです。防災・減災力もきっと高いでしょう。

私のお話の内容をまとめますと、防災・減災の観点で、地域コミュニティのつながり・関係性が多くの個人の命を守ることには間違いありません。そのためには、平時の営みが大事です。「ノーとは言えない」

お互いさまの関係性づくりには、互いを尊重するという大前提がある柔軟性と多様性の高さが求められます。すでに実践されている方もいらっしゃるかと思いますが、このようなメッセージを受け取っていただき、日々の取り組みの中で少しでも意識していただけるととても嬉しいです。